

令和5年度介護福祉研究センター事業報告

I. 会議関係

1. 運営委員会

1. 運営委員会

1) 第1回 令和5年4月17日(月)

- [議事内容]・運営委員会の開催日時 ・センター事業担当者の確認
・研究員任期継続確認 ・作文コンクールの今年度開催見送りについて
・介護福祉セミナーの確認 ・定例研究会(第52・53回)
・介護・福祉研究第8号の配布状況

2) 第2回 令和5年5月9日(火)

- [議事内容]・前期センター会議、第52回定例研究会について
・作文コンクール冊子の配布について
・新規研究員の承認
・研究員メーリングリスト作成について

3) 第3回 令和5年6月20日(火)

- [議事内容]・前期センター会議、第52回定例研究会詳細確認
・介護・福祉研究第10号について
・センター紀要「介護・福祉研究」第10号執筆希望者募集

4) 第4回 令和5年7月21日(金)

- [議事内容]・第53回定例研究会 内容確認
・センター紀要「介護・福祉研究」第10号受付状況
・最新の研究員名簿とご案内の送付方法の周知

5) 第5回 令和5年8月22日(水)

- [議事内容]・「介護・福祉研究」第10号の執筆者の決定 ・新規研究員の承認
・第53回定例研究会(お茶・お菓子の購入、会場設定)
・介護福祉セミナーのチラシ準備・発送時のラベル準備について
・運営委員会の日程協議(10月、11月、12月)

6) 第6回 令和5年9月21日(水)

- [議事内容]・介護福祉セミナーについて送付方法の周知(9月29日送付作業を行う)
・介護福祉セミナー駐車場、ボランティアについて

7) 第7回 令和5年10月20日(金)

- [議事内容]・介護セミナーの役割分担
・介護セミナーの案内送付：返送された郵便物は相談の上ラベル削除
・54回定例研究会、日程・内容の決定
・後期センター会議の内容確認
・令和6年度介護セミナーの内容について

8) 第8回 令和5年11月24日(木)

- [議事内容]・介護福祉セミナーの最終打ち合わせ
・後期センター会議役割分担
・第54回定例研究会、日程

9) 第9回 令和5年12月8日(金)

- [議事内容]・後期センター会議の最終打ち合わせ
・「介護・福祉研究」第10号の校正・印刷
・来年度介護福祉セミナーについて

10) 第10回 令和6年1月26日(金)

- 〔議事内容〕・「介護・福祉研究」第10号の入稿・校正について
- ・任期満了のセンター研究員の継続確認の作業について
 - ・来年度介護福祉セミナーについて

11) 第11回 令和6年2月20日(火)

- 〔議事内容〕・第54回定例研究会の役割分担
- ・「介護・福祉研究」第10号の校正・印刷、発送先について
 - ・任期満了のセンター研究員の継続確認の作業について

12) 第12回 令和6年3月11日(月)

- 〔議事内容〕・任期満了のセンター研究員の継続確認の作業について
- ・「介護・福祉研究」第10号の発送、配布について
 - ・来年度介護福祉セミナーについて

2. センター会議

1) 前期センター会議 令和5年6月26日(月) 17:00~17:30 参加者16名

於) 高田短期大学2号館カフェテリア

- ・令和4年度事業報告(案)
- ・令和5年度事業計画(案)
- ・令和5年度予算報告
- ・「介護・福祉研究」第10号の執筆 募集
- ・新規研究員の紹介・辞令交付 牧戸眞佐子研究員

植村民樹研究員

※6月末時点在籍研究員数: 46名



2) 後期センター会議 令和5年12月13日(水) 18:00開催予定

於) 高田短期大学第9演習室

- ・令和5年度事業経過報告(案)
- ・令和6年度事業計画(案)
- ・令和6年度予算要求(案)

II. 研究活動

1. 定例研究会

介護福祉研究センターでは、地域の福祉施設等の関係者や介護福祉関係で活動していただいている方々、卒業生を研究員に招き、2023年9月現在47名(内卒業生20名)の研究員が在籍しています。年間4回の定例研究会を開催し各分野の情報交換を行い、地域に還元できるよう学びあっています。

場所は、原則介護福祉研究センターまたは介護実習室で行っています。

1) 第52回定例研究会 6月26日(月) 18:00~19:30 参加者19名

・テーマおよび発表者:

①「視覚障害のある認知症高齢者とのかかわり」中村 匠研究員(本学卒業生)

②「半側空間無視のある入所者に対する居室認識の取り組み」出馬 宏海研究員(本学卒業生)

③「自分らしく生活するための支援」前田 彩研究員

・内容: 特別養護老人ホーム報徳園の中村匠さん、出馬宏海さん、前田彩さんの3名からお話をいただきました。中村さんの報告では、利用者の行動を観察するだけでなく、職員の言動に対してどのような反応があったのか等が具体的に報告されていました。出馬さんの報告では、利用者の行動をもとに分析や工夫を繰り返しおこなっている様子について写真も交えながら具体的に報告されました。前田さんの報告では、支援者が思い込みで判断するのではなく、相手を知ろうとする気持ちや原因を探ろうとすることの大切さに気づいたということが報告されていました。それぞれの報告に共通していたことは、利用者の行動を問題行動として捉えるのではなく、「何を伝えたいのか、どのような人なのかを理解したい」という思いが支援の出発点になっており、丁寧な日々のかかわりの記録をもとに実践内容を検討されているという点でした。参加者からは、日々の業務だけでも大変だと感じる事が少なくない中、あたりまえの毎日に関心をもつことや、記録をもとに職員同士で語り合うことができる環境の大切さを感じることができたという感想が出されました。



2) 第53回定例研究会 9月8日(金) 17:00~18:30 参加者 15名

・テーマおよび発表者:

「利用者に寄り添う支援」久保 朝水研究員(本学卒業生)

・内容: 社会福祉法人サンフワーククラブ生活支援員の久保朝水さんからお話をいただきました。施設の紹介や利用者の一日の様子について、写真も交えながら具体的に報告され、参加者からは行事の内容等について積極的な質問が行われました。また、利用者に寄り添い関わる中で、ずっと同じ支援ではなく、変えることで新しい発見があったり、コミュニケーションや表情、動きからいつもとは異なる変化に気づいたりすることがあると報告されました。悩みながらも利用者に関わり続け関係性を築いていったことで「利用者との関係の変化」、学生時代には気づかなかったことに気づいたり、学んだことがつながったりと「自分自身の成長」など、働くなかで変わったことも報告され、卒業生の成長した姿を感じる嬉しい時間となりました。



3) 第54回定例研究会 2月27日(火) 17:00~19:15 参加者 11名

・テーマおよび参加者

「価値の実現と幸福についての考察」 山本 啓介研究員

・内容：山本啓介研究員から「価値の実現と幸福についての考察」をテーマにお話をいただきました。先人らの幸福観、映画のタイトルや商品のキャッチコピー等を具体的に挙げながら、人々は幸せを願っており、世の中には「幸せ」が溢れていることを確認したうえで、幸せとは個人の主観であると報告されました。本学の授業で行われている「価値観交流学习」についても取り上げられました。幸せや幸せの条件は、社会制度や文化によって異なるが、だからこそすべての人の幸福のために国や社会が為すべきことは多いのではないかという報告が印象に残りました。発表の最後は、昨今の「戦争」に思いをさせ、価値観を統一する必要はない、必要なのは尊重し合うことだと熱いメッセージをいただきました。

その後、「幸せの視点はそれぞれ違う」「幸せを言葉にすると違ったものになる」等、研究員同士の積極的な意見交換もあり、あっという間に時間が経ち、皆で有意義な時を過ごすことができました。



III. 実施事業

1. 介護福祉セミナー

1) 介護福祉セミナー

令和5年11月25日(土) 13:30~15:30 参加者：24名

テーマ「リハビリあそびうたで楽しみましょう♪」

～支援の必要な子供たちの音楽プログラムを体験しませんか～

講師：音楽療育施設 リズムラビット所長 矢野 加奈子先生(本学卒業生)

著書：「いいところ いいところ みつけてこ」

支援が必要な子どもは、普通に文章で話してもわかりづらい、自分に言われていることに気づかない、何度言っても習得しにくい等の特徴があります。リズムやメロディに合わせて、擬音語・



擬態語・擬声語等(ガチャ・キラキラ・ザーザー等)を用いることで、言語力、協調性を楽しみながら育んでいけるとお話をいただきました。これら擬音語・擬態語・擬声語を「オノマトペ」といいます。参加者が、「オノマトペ」を用いて、実際の場面で、どのような言葉をかけたらいいか体験するとともに、歌やゲーム等の音楽プログラムを楽しく学びました。



IV. 介護の未来を考えようーあなたの思いやりを言葉にしてみようー作文コンクール

今年度の作文コンクールの開催は見合わせる。

第1回から第3回の受賞者の冊子を、下記に配布し介護の啓発を行いました。

- ・配布先は、津市教育委員会、亀山市教育委員会、松阪市教育委員会、鈴鹿市教育委員会、受賞者と保護者、受賞者の学校、津市・亀山市・松阪市・鈴鹿市の全小中学校（公立）、高田中学、県内の特別養護老人ホーム、実習施設、介護福祉コース1・2年生。

V. 地域の高齢者に対する介護福祉啓発活動

1. 一身田桜町地区との連携事業「一身田桜町にここサロン」講師派遣

令和5年9月25日（月）10:00～11:30 参加者 16名

一身田桜町地区の高齢者対象の「桜町にここサロン」が開催され、中川千代研究員が講師として参加しました。テーマは「レクリエーションを通じた介護予防」です。ジャンケンを使ったアイスブレイキングの後、サラリーマン川柳をもとにクイズ形式で答えていただきながら川柳を皆で読み合わせました。その後、戦後から昭和40年代頃の歌謡曲や演歌が題材の「思い出かるた」を取りながら大声で口ずさみ、当時の思い出を語り昔話に花を咲かせました。



2. 一身田青年団主催第40回七夕まつりに参加

令和5年7月8日（土）参加者：中川千代研究員、川喜田多佳子研究員、2年ゼミ学生

ゼミナールⅡの授業を活用し準備を重ね、学生ボランティアが伊勢木綿の着物を着用して地域産業のPRを行うなどの企画や「風車ブース」「子どもの遊びブース」等を運営しました。当日の天気は良く、多くの親子連れや小中学生等が訪れ、一身田寺内町は、活気があふれました。センターは、費用面で側面的に協力しました。この行事を通して一身田青年団とのつながりができ、高短

祭でのミニ SL のコーナーの運営協力を得ることができました。



VI. 研究成果の発行

1. 介護福祉研究センター紀要「高田短期大学介護・福祉研究」第10号（令和6年3月発行）
執筆希望書を編集委員会で協議し執筆者を決定しました。研究論文1編、実践報告2編、研究ノート1編、調査報告1編に原稿依頼しました。

高田短期大学介護・福祉研究第10号執筆依頼一覧

*掲載順は各種別順

No.	研究員名	単・共	原稿種別	表題
1	千草 篤磨	単著	研究論文	発達保障論と仏教福祉 一頼尊恒信氏に対する疑問を通してー
2	服部 優子	単著	調査報告	介護施設現場においての実習指導者が抱える実習指導への不安と課題について
3	山本 啓介	単著	研究ノート	価値の実現と幸福についての考察
4	川喜田 多佳子 寺家 尚美	共著	実践報告	Excel の表設計にみられる問題への一考察
5	桂三発	単著	実践報告	座敷童が出ました